



## 看護師つれづれ日記⑧ 訪問看護って どうやって来てもらう



「訪問看護」と聞いてぱっと来る方、「ん？聞いたことはあるけど、どんな風に開始するの？対象年齢は？誰でも利用できるの？」とわからない点も多いかと思えます。そこで、今回は、訪問看護の開始と、訪問看護の内容についてお話をさせていただきます。

訪問看護ですが、目的は「在宅で、療養する事のお手伝い」です。

介護保険を申請している場合、ケアマネージャーさんから依頼が来る場合と、入院していた方が退院する時に、病院のソーシャルワーカーさんから依頼が来る場合、通院中の患者様で主治医から依頼が来る場合があります。

入院されて急性期の治療が済んだ後に、在宅で治療を継続する場合や、人工肛門やカテーテルを挿入されたまま退院される時、定期的に注射をしなければならぬ状態、決まった薬を服用しなければいけない時、また、リウマチや糖尿病、心不全や呼吸器疾患等で全身状態の管理が必要な場合等、在宅で生活しながら治療を継続する必要がある場合です。ある程度の技術は、入院中にご家族が病院に通つ

て、病院で指導を受けてくる事が多かったのですが、コロナ禍となり、病院への出入りが難しくなり、在宅での家族指導も増えました。病院での治療を在宅でも継続していく場合、高齢化となり、老々介護、独居の方もいらっしゃいます。そのようなお宅にも訪問して、全身状態の観察、管理を行い、不調や急変の時は医師と連絡を取る等も訪問看護の役目です。訪問看護を行うときは、必ず、主治医の指示書が必要になります。その指示書には、治療内容、管理する項目等が記載されており、訪問看護師は、それを元に看護計画書を作成し、一か月毎にこのような内容で、ケア致しますと提示しています。そして、計画書を元にケアした結果を報告しています。ケアマネージャーさんから依頼が来る場合も、医師の指示書とは別に、ケアマネージャーが作成したケアプランに基づいて看護計画書を作成します。利用者さんを囲む多職種が同じ方向を向いて、目標を共有し、利用者さんが在宅でよりよく生活できるようにお手伝いをさせていただいています。これまでにお話しさせていただいた「看取り」も同様の流れで依頼が来て、訪問させていただいています。対象年齢は新生児から高齢者まで。身体的な疾患から、精神疾患まで幅広くお手伝いさせて頂いています。何らかの理由で、医療の目が

必要な方、通院が難しくなった方、訪問看護、訪問診療で、在宅でも穏やかに生活できるようにすることが願いです。ステーションによっても違いはありますが、私の事業所は24時間、365日緊急対応しています。夜間早朝、何時でも電話は繋がります。電話相談だけでも可能、緊急訪問も可能です。病院に行く程ではないけど心配、ちよつと聞きたいことがある等、どんな事でも不安になったら連絡可能です。連絡が取れる場所がある。そう思って生活するだけでも安心と言えます。私が長かったのですが、訪問に切り替えてから、「困るのは退院してから」と強く実感しています。病院の時は「心配な事はないですか？」「何かあったら連絡してくださいね」と言っていて退院時に声をかけていました。退院するときには何が心配かなんてわかりません。家に帰って生活して初めて、困ることが出てくるのだと思います。それをその時に解決できるように訪問看護を頼ってください。在宅でその人がその人らしく、好きなことをして過ごせるようにお手伝いさせていただきます。日々それを考えて働いています。心の拠り所と言ったら大げさかもしれませんが、困った事、不安なことがあっても相談できる人がいる。そう思っているだけで嬉しそうです。